

4月から
KATANO STYLE

小中一貫教育 スタート!



交野市は9年間で育てます!

小中一貫教育って何?

小中一貫教育とは、小学校と中学校の教育課程をつなぎ、義務教育の9年間において、一貫性を持たせた教育を行うことです。

そのために、小学校と中学校の先生たちがタッグを組み、小・中学校それぞれの子どもたちがつまずきやすいポイントを一緒に確認し、子どもたちの学びと心の育ちをともに見守ります。

市内には4つの中学校区があります。中学校区それぞれに「〇〇学園」という愛称と「めざす子ども像」があり、それぞれの学園の小・中学校で「めざす子ども像」が共有され、学園独自の「9年間をつなぐ学び」が行われていきます。

①学び どんな学習が始まるの?

学習内容の基本的な部分は、市や各学校が以前から新学習指導要領が全面実施されることを見据えて取り組んできたものが土台となります。小中一貫教育とは、そこに「9年間をつなぐ」「学園独自のカリキュラム」という2つの視点が新たに加えられます。これまでの「小学校6年間」「中学校3年間」という枠組みを超え、「義務教育9年間」というまとまりとして捉え、小・中学校の先生たちが「9年間を見通す」という同じ視点をもって授業を考えることにより、子どもたちの学びがよりスムーズに進められるようにします。

学力面では、市がめざす資質・能力を育むため、引き続き「ことばの力の育成」「プログラミング教育の推進」「外国語教育の充実」を中心として、各教科等のさまざまな学びを充実させていきます。

育成をめざす資質・能力『社会の様々な変化に対応するための「生きる力」』

- 主体的に根気強く学びに向かう力
- 自分の考えを持ち、表現する力(言語活用力)
- 基礎的・基本的な知識を習得し、活用する力
- 他者と協働しながら課題を解決する力



★「ことばの力」の育成

国語科を中心に、全ての教科において、語彙力・文章を読む力・書く力を育成します。また、学校図書館を活用した読書活動、資料の活用を伴った授業を推進します。



交野市の学び(三本の柱)

★プログラミング教育の推進

レゴ型ロボット、Pepper、ICT機器等を用いたプログラミングの学習を通し、子どもたちの情報活用能力、論理的思考力を育成します。

★外国語教育の充実

外国語活動・外国語科(英語)の充実のため、ALT(アシスタントランゲージティーチャー)を配置し、英語を用いたコミュニケーション能力を育成します。



5・6年生 定期テストの実施

小学校では、基本的に1つの単元や学習のまとまりが終わるごとにテストをして理解の様子を見取っています。一方中学校は、複数の単元や学習のまとまりを範囲とする、中間テストや期末テストなどといった定期テストを実施しています。

小中一貫教育では、5・6年生から定期テストを行うことによって、中学校の学習方法に少しずつ近づけていけるようにします。

②交わり

「こんな中学生になりたい!」
「未来の同級生と仲良くなれた!」

小中交流
小小交流

中学校入学を見据え、中学校の授業見学や部活動見学、中学生との学習交流を進め、小学生が中学校生活に向けた希望や期待を持つことができる取組みを充実させます。

また、小学校同士でも、行事交流・学習交流などを低学年のころから積極的に行い、子どもたち同士のつながりを深めていきます。

交野が原学園
(一中校区)

【小6と中1平和学習発表会】



たなばた学園
(二中校区)

【合唱練習見学】



星のまち学園
(三中校区)

【授業体験・部活動見学】



天の川学園
(四中校区)

【中学校での授業体験】



③育み

新たな科

各学園のめざす子ども像をもとに、縦(9年間)と横(教科間)のつながりを整理し、平和学習、キャリア学習、防災・安全学習、地域に関わる学習など、学園独自の取組みを実施します。

5・6年生 教科担任制の導入

小学校では基本的に担任の先生が授業をします。一方中学校では担任の先生だけでなく、各教科の専門の先生が授業をします。

小中一貫教育では、担任の先生が授業をする良さをそのまま残しながら、5・6年生の一部に中学校の先生による教科担任制を導入することによって、専門性のある教科指導を行い、子どもたちの学びをより深いものにしていきます。

小中一貫教育で、小学生のころから「中学校3年生の自分」という目標を具体的にイメージし、希望を持ちながら自己実現ができるよう、学園・地域・市が協働し、子どもたちをサポートしていきます。

取組の詳細は教育委員会
小中一貫教育のホームページへ

